

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4393000106		
法人名	社会福祉法人光栄会		
事業所名	グループホーム りんごの里		
所在地	熊本県葦北郡津奈木町小津奈木2120-62		
自己評価作成日	令和2年 1月 30日	評価結果市町村報告日	令和2年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和2年2月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人が自分のペースで生活が出来るよう、要望を聴きながら支援を行っている。趣味活動、散歩、園芸等を自己決定にて行える環境作りに努めている。毎月季節に添った計画や施設全体での行事にはご家族にも参加して頂き、地域のイベントの参加等行事を行っている。施設内に認知症対応型通所介護、特別養護老人ホームを併設している為、馴染みの方との交流がいつでも行え、スムーズな移行もできる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年4月開設し、法人理念にもとづいた事業所目標を掲げてケアに取り組んでおられる様子を聞く事ができました。地域との関係作りにも努められており、併設するデイサービスや特別老人ホームの利用者の方々のコミュニティ、そしてこれから更に広がっていくであろう地域との関わりを感じられました。入居者は比較的に身体機能が高く活動的であり、共有空間で過ごしたり、自室で編み物やテレビ鑑賞・園庭での花のお世話等をしたりとそれぞれの興味のあることを支援されています。町の美術館では地域を巻き込んだちぎり絵製作が発案され、事業所でもその一部の製作を担い、大きな作品が完成したとのことでした。職員面談ではそれぞれに事業所のことを思い、入居者のことを思う気持ちが聞かれ、真摯にケアに臨む姿を感じました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念はフロアーに掲示している。年間目標の中に理念を踏まえた項目を掲げ達成できるように取り組んでいる。年間目標に対する評価を行い、次年度に向けた目標を再設定し、積み上げていく。	法人設立以来の基本理念「あかるく」基本方針「たのしく」運営方針「げんきよく」を踏まえて事業所の年間目標を設定している。毎月会議時には入居者それぞれについて理念にあったケアを目指すことを検討事項としている。	認知症ケアの柱である、理念を入居者・家族・地域の人々、そして職員が共有して理解し応援できるように、掲示の工夫を望みます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に入居者様と参加している。施設の行事には地域の方々に参加して頂くようにしている。	事業所開設は間もないものの隣接する特養は以前から開設していたため、従来の特養での行事を広げ交流を深めている。年末には近隣の子も達を招待して餅つきを行い喜ばれた。地域の認知症カフェ開催には立ち上げから職員も関わっている。事業所内には地域住民も利用できるホールもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月に1回、町の認知症カフェに参加し、介護についての情報を提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、情報や出来事を伝えている。	隔月の運営推進会議の開催は事業所の日頃の様子を報告するだけでなく、行政・地域との情報交換の場ともなっている。年末の餅つきは地域役員とお付き合いから実現したものであった。	事業所では運営推進会議を活かした地域との関わりを課題に感じられているようです。今後の広がりに期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の担当者とは増設や運営についての相談などでの連絡を取っており、認知症カフェの時にも状況を伝えたりしている。	町とは事業所開設にあたっての相談以降、度々訪問している。毎月の認知症カフェ開催時にも事業所の状況を報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを行う事を徹底している。玄関の施錠は管理棟在中や平日は行わないよう心掛けている。	職員は日頃から身体拘束をしないケアを実践している。身体拘束についての研修は年複数回行うことで学んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内での年に2回の勉強会を通して意識付けを行っている。入居者様が不快な思いをしないケアを行い虐待に繋がらないよう努めている。		

グループホーム りんごの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度から研修の機会を持つ予定にしている。施設内の生活相談員に相談できる環境を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行っているが不十分な点があり、再度説明を行い理解、納得して頂いた。問い合わせには随時対応し納得される説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やケアプラン更新時に話をさせて頂いている。玄関にご意見箱を設置し活用して頂くようにしている。何でも話しやすい関係性を作るよう努めている。	家族の意向は面会や電話等を通じ把握しており、年数回の大きな行事には家族へ参加を呼びかけ、意見を得る機会としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットミーティングでの意見をリーダー会議や運営会議に反映させる機会を設けている。	職員は毎日の業務の中や申送り、会議等で、管理者やリーダーへ意見を述べる事が出来る。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現状の把握は管理者を通じて行っており、給与水準等の見直しを図っている。研修案内はすべて観覧できるようにし、資格や研修にも交通費や参加費などを考慮したり、積極的に取り組む環境を整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の必要とする研修はできるだけ全員が受講できるように時間の設定に配慮し、職員の力量に見合った内容の研修を行うように考慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣町の水俣の「サービス連絡協議会」の地域密着部会に参加することで他の事業所との交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴を考慮しながら一人ひとりのペースに合ったケアに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの要望や性格、生活ぶりについての情報を聞き安心した生活が送れるよう受け入れを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在そのような対象者がいない為行っていないが、今後そのような支援が必要な方には対応していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯、掃除、ゴミ出し等の作業は一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に御本人の状態を報告している。施設全体の行事には参加して頂くよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	法人内のデイサービスや特別養護老人ホームにいらっしゃる馴染みの方との交流が図れるように自由に行き来して頂いている。	同じ施設内に特別養護老人ホームやデイサービスもあり、相互の訪問により馴染みの関係が続いている。家族の面会や協力による外出も多く見られる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係に合わせた席の配置、少人数と全体でコミュニケーションが図れるように努めている。		

グループホーム りんごの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設内の特別養護老人ホームへ移行した場合、顔を出したり、声掛けしたりしながら関係性を保つようしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人の意向に沿えるよう趣味活動、散歩、買い物、レクリエーション活動を実施している。	事業所では日頃から「日中は記録よりも入所者との関わりを持つ」ことを大切にしており、関わりの中から意向を汲み取っている。入居者の生活はそれぞれの時間の過ごし方が尊重されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人、御家族からの聞き取りを行い情報の共有をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日同時間のバイタル測定を行い、心身の状態を把握しながらケアプランに沿ってケアを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニットミーティングでの意見、状態によっては検討会を行い、家族からの要望や意見も踏まえて、現状に即した介護計画を作成している。	日々の申し送りや毎月のユニットミーティングで出された職員の意見に合わせ、面会等を利用した家族の意見も反映した介護計画は現状6ヶ月毎に見直しを行っている。介護保険の更新や遠方家族の来訪を機会に家族とも計画についての相談・報告を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の重要性を認識してもらうとともに、気づきは申し送りノートに記入し情報を共有し日々のケアに活かすように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外泊や外出などの要望があった場合などスタッフの手が必要な時にはできるだけ協力できるようにしている。		

グループホーム りんごの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事の参加を通じて交流を図っている。町の美術館でのコラボ企画では入居者様に作品作りに参加して頂いた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1回の協力病院による訪問診療、訪問歯科により連携を図っている。専門外医療については関係医療機関を紹介してもらっている。家族の希望も考慮した受診も行っている。	入居前からのかかりつけ医の受診を支援しているが、現状殆どの入居者が協力医をかかりつけとしている。協力医・歯科は基本的に往診である。その他医療機関の受診は家族の送迎をお願いしているが、場合により職員が送迎を行うこともある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職の配置はないが、施設内の看護師へ相談できるようにしている。協力病院へ連絡し指示を仰ぎ、対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関には入居者様の状態についての情報を得ている。6ヶ月に1回協力病院との連携会議を行い、情報交換や相談を行い関係性を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時リビングウィルの確認を行っている。重度化した場合は主治医も含めて話し合いを行い、法人内特別養護老人ホームへの案内も行っている。	入居時に入居者・家族へ事業所の考え等を説明しており、開所1年目で現状看取りの事例は無い。現状では緊急の場合を考えた説明を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修で救急救命の講習を定期的に行い、緊急時対応マニュアルを作成し備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練(日中・夜間想定、地震災害想定)を実施している。	年2回の消防訓練は建物内のデイサービスと特別養護老人ホームとの合同で消防署立ち合いのもと実施している。実施後は振り返り及び今後について話し合いを行っている。居室入口には避難完了を把握するためのプレートを設置したりと工夫もみられる。法人の防災委員会では非常食や防災備品チェックも行っている。	事業所合同での協力体制の様子がうかがえました。熊本地震の経験から、事業所単体での避難訓練も是非検討してください。

グループホーム りんごの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	羞恥心に配慮し、プライドを傷つけないような声かけや対応を心掛けている。	日々のケアの中でプライバシーへの配慮が必要な場面、入浴や排泄時等の対応について、声掛けの仕方等ミーティングで話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりが思いや希望を言えるような環境作りに努め、実現を図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合った生活時間で暮らしていけるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問散髪を利用したり、馴染みの美容室へ行っている。自分で洋服を選んで着用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備、片付けの出来るところを行ってもらっている。炊飯や盛り付けを行っていくよう準備している。昼食は職員も一緒に食べている。	食事は施設内で用意されており、配膳は事業所で行っている。食事中は職員も同じ食卓で時間を過ごしている。	訪問時の入居者皆さんの生活の様子から、食事を生活の場とする関わりがもう少し欲しいように感じました。配食であることから、配膳や片付け等への入居者の関わり方の工夫に期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた量や携帯で提供している。状態に応じて対応し、盛り付け等も工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日ではないが口腔体操を行っている。食後の口腔ケアの声かけ、見守りを行い必要時は介助している。月に1回の訪問歯科を利用して頂くことで口腔内の状態の把握を行っている。		

グループホーム りんごの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立されている方が多い為その能力が維持できるように支援している。状態やその人の力に合わせてオムツの種類を変更している。	現状、ほとんどの入居者についてトイレでの排泄を支援している。夜間はポータブルやパットの使用等、入居者それぞれの状況により対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日チェックを行い、水分の摂取や適度な運動を心掛けている。必要に応じて下剤を使用しコントロールすることもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの状態に合わせて実施している。入浴希望がある場合はできるだけ浴うようにしている。	入浴は週2回以上午後を基本としており、入居者希望により週3～4回も対応出来ている。職員からの過度な手伝いはせず、服の準備や入浴中も出来るだけ見守りを中心としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御本人の寝具を使用して頂いたり、室温の調整をして快適な環境作りに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	特に注意すべき薬は目に見えるよう示し、意識付けを行っている。症状の変化も観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな事や希望する事ができるよう支援している。嗜好品は家族と相談し定期的に参加してもらっている。花の水替えやゴミ出しを役割として行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	定期的に御家族と外出されている。季節ごとの地域のイベントに出かけたり、散歩も行うようにしている。	家族協力による外出や散髪も見られ、事業所では季節毎の外出等も行われている。入居者からの買い物希望の際には職員同行にて行っている。日常的には庭を散歩する姿もある。隣接するデイサービスや特養を訪問する機会も多い。	

グループホーム りんごの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	訪問販売(パン・ヤクルト)を利用している。職員に依頼する場合もあるが、日用品の買い物の付き添いを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞いや年賀状を出して頂いている。家族との電話には対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁の掲示物を毎月変えている。テーブルには花を飾り季節感のある生活を送って頂くように心掛けている。空調や加湿器、空気清浄器を利用し、居心地の良い空間を提供できるように努めている。	共用空間は歩行器や車椅子での走行もゆったりと出来るほどの広さがあり、温・湿度、清掃にも配慮されている。廊下にはユニット畳も設置されている。リビングにはソファもあり、思い思いに過ごすことが出来る空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様仲に合わせた席の配置や、リビングにはソファを置きつつろげるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ち込んで頂いたり、ご自分で壁を飾られたり、居心地よく生活できるようにしている。生活ぶりを見ながらご家族に相談し必要な物を持参して頂き、居室での趣味活動ができるよう支援している。	居室はベッド・タンスが備え付けてあり、洗面台が設置された部屋もある。書き物をする机、趣味の編み物等、また趣味で得たトロフィー等、これまでの生活を思い起こすことが出来る部屋作りがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線を確保し、安全に生活できるよう努めている。花の水替えや、水やり、下膳等できる家事は行ってもらっている。安全に入浴できるようにリフトも使用している。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム りんごの里

作成日 令和 2年 3月 31日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	認知症の柱である理念を入居者・家族・地域の人々、そして職員が共有して理解し、応援できるように掲示の工夫を行う。	理念を誰でもわかる様に掲示する。	理念を大きな文字で目につきやすい場所に掲示する。ミーティング時に読み上げ、共有する。	直ちに
2	4	運営推進会議を活かした地域との関りに課題がある。	地域とに関わりを少しでも広げるよう努める。	地域消防団の方々とも面識ができ、交流ができる機会を作る。	1年間
3	35	災害時避難訓練を法人内事業所合同で行っているが、単独での実施も検討する必要がある。	当事業所だけの災害避難訓練を計画し、実施する。	今年度、まずは1回、計画・実施する。	1年間
4	40	配食のため、食事を生活の場にする関りが少ない。配膳や片付け等への関りを工夫する必要がある。	生活の活動としての家事活動の場を増やしていく。	食事の盛り付けや炊飯など行っていく予定で物品は準備した。今後は役割などの具体的な計画を立て、実施していく。	半年間
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。